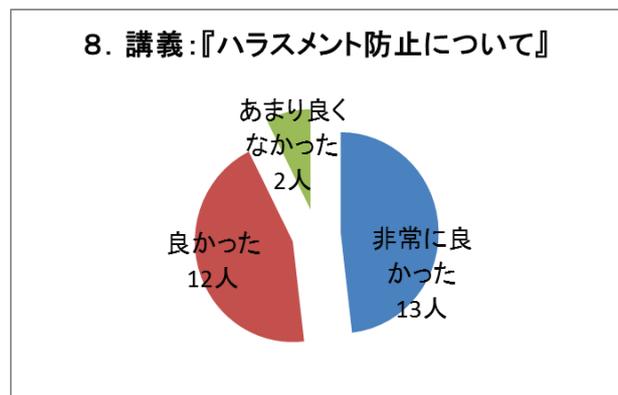
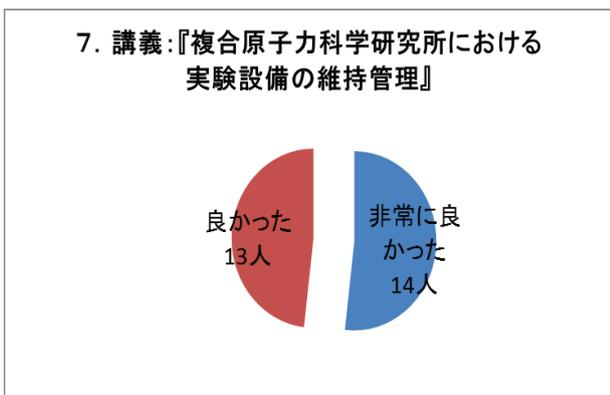
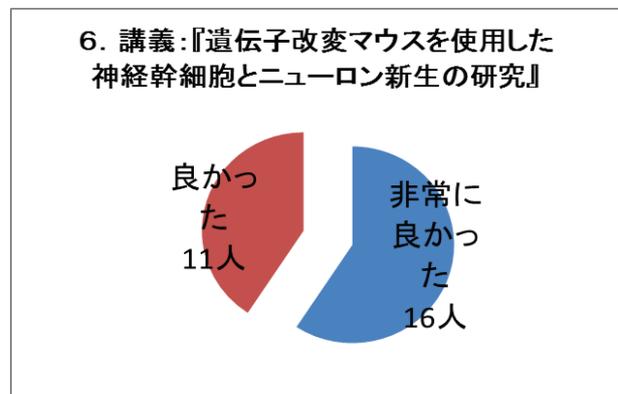
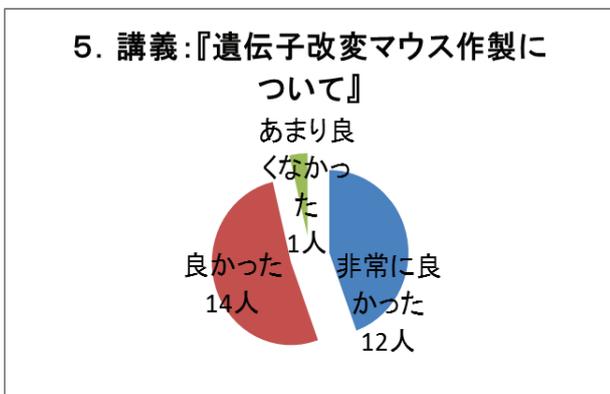
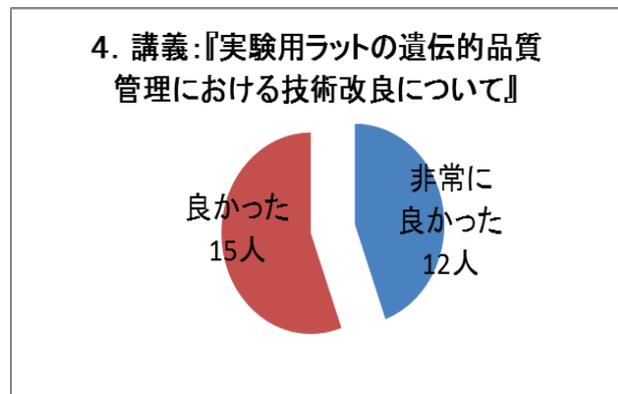
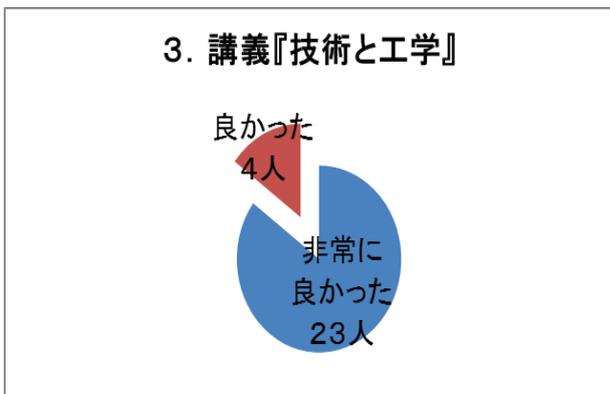
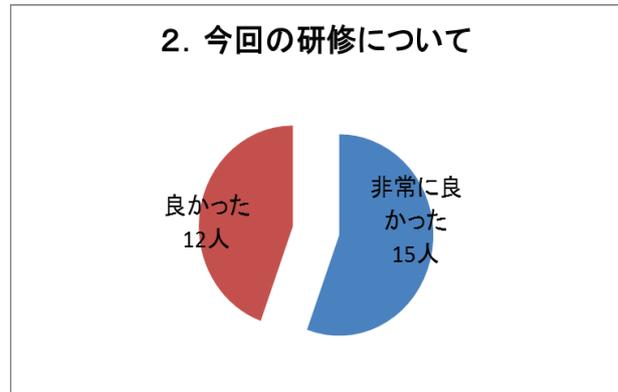
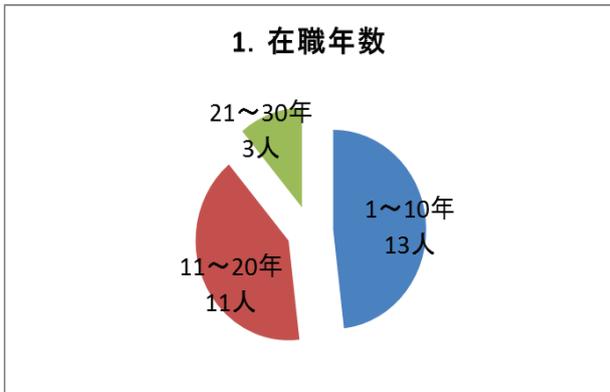
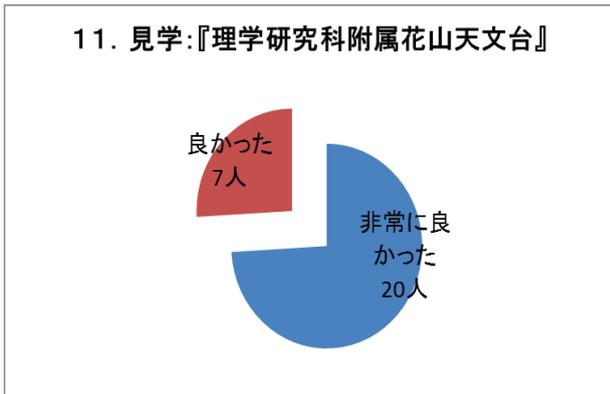
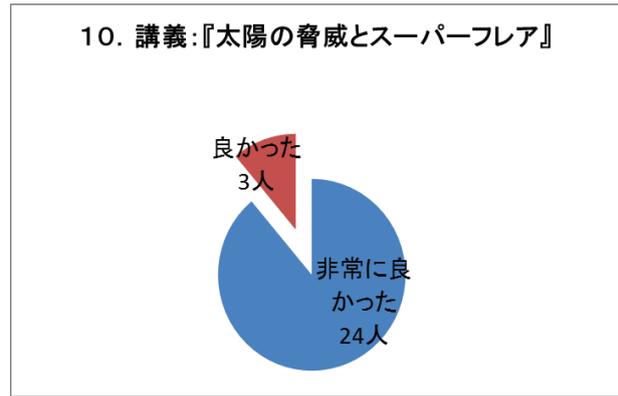
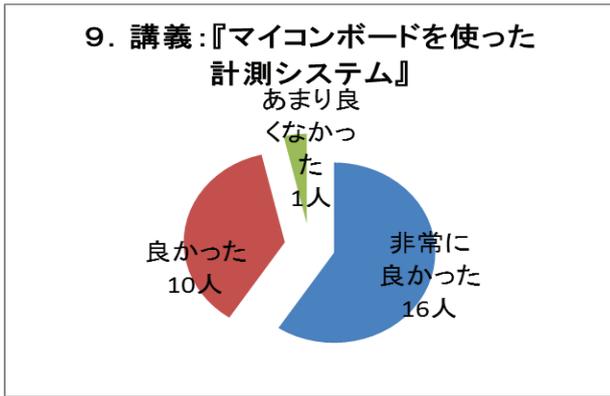


京都大学技術職員研修(第43回)アンケート集計





\*27名の回答

## 感想

工学研究科 機械理工学専攻 北村 隆行 教授

講義『技術と工学』(18件回答から抜粋)



- ・機械の分野に携わっているが、ナノレベルでの破壊実験は新鮮でした。わかりやすく教えていただき勉強になりました。
- ・技術を表現することの重要性、難しさを具体例を示しながらご説明いただき、大変わかりやすく理解できました。

た。ナノのお話をもっと聞きたいと思いました。

- ・破壊に関する講義だった。例えば自動車の衝突実験が紹介されていたが、昔は実際に車を何かに衝突させて実測に基づいて調査がなされていたのだという。しかし、今は、実際に車を破壊することなくコンピューター上で計算して破壊実験をシミュレーションできるそうだ。時代は進歩したなあと思った。そして、今ではナノの世界での破壊実験が検証されるようになり非常に細かい世界を扱うようになったのだなあ、世の中のことを知れて良かった。
- ・技術は、物事を詳細に観察した上で、具体的に予測し実践する、という先生の言及に共感しました。「頭でっかち」になるのではなく、実際に手を動かすことの重要性を再確認しました。
- ・北村教授のユーモアを交えた講義でとても引き込まれた。また、コミュニケーションの重要性を改めて感じた。
- ・技術は、経験則に基づく判断により実践されるものと、知識・知恵に基づく予測の下で実践されるものがあるが、経験による技術から予測の技術への変遷している。我々の職務は正に、経験則や勘所をデータ計測により数理モデル化し、誰にでも理解され易いものとして技術を改良普及するのが責務であると考えており、工学や医学に付随する技術においても対象は異なるが類似した考え方で括ることが出来るのだなと改めて感じた。
- ・技術と工学について、興味深いお話が聴けて、とても為になった。講義の最初の技術の歴史のお話は興味深かった。ルネサンスの巨匠、レオナルド・ダ・ヴィンチの時代は、実際にやってみた経験に基づく技術であり、膨大なデータ収集による博物学的な職人気質とも言える技術が主体であった。時代が流れ、ニュートン以降、膨大なデータから原理を見だし、科学に基づいた予想する現代の技術に発展した。それに伴い、現代の技術が、人類に最大限に役立つ事の探求を目的とする工学に繋がる流れは、将に圧巻であった。同時に、技術職員の未来像として、経験だけでなく、科学にも基づいたスペシャリストになる必要性を痛感した。その後の科学技術に対する悲観主義者と楽観主義者のお話も天空の城ラピュタのポムじいさんを例に挙げ、解説してもらったのは、判り易かった。確かに科学は使い方によっては、非常に危険であるが、安全に使えばとても有用である。危険だからといって、車やネットを完全に禁止にするのは、便利な社会を否定する事となる。将来の明るい未来の為には、科学の楽観主義者でありたいと思った。科学の楽観主義者として、安全を確保する為に破壊する重要性についての概念は、興味深かった。科学技術によるシミュレーションの予想の限界から、実際に確かめる為の実験の重要性を改めて感じ入った。まだ、科学で世界を予想するには、発展途上であり、データ収集不足でもあり、まだまだ技術職員としてやるべき事が多く残っている。未来の技術と工学の為にも業務に邁進する事を肝に銘じた。

## 医学研究科 中西 聡 技術専門職員

### 講義『実験用ラットの遺伝的品質管理における技術改良について』(19件の回答から抜粋)

- ・遺伝子の保存法やDNA精製法について、動物保護政策や簡易性、保存容量の問題を解決するために新しい方法を模索していく過程は分野が違っても業務を実施する上で勉強になった。
- ・普段、自分が接する機会が少ない業務内容で、大変興味深かった。管理する苦勞などがひしひしと伝わってきた。
- ・生体細胞からDNAを簡便に取り出してPCRまで行うためのキットが複数市販されており、そんな便利なキットがあるのだなと参考になった。また、これらのキットをうまく併用することで目的のDNA解析をかなり容易にしている所も使い方が上手で参考になった。加えて、近年の動物愛護法改正により、従来はラットの血液からDNAを取り出していたが、口腔スワブに切り替えて作業している所は対応が早く素晴らしいと思いました。



- ・生物化学的な内容は難しかったが、専門外の人にも分かりやすいよう導入部を長めにして説明されているのが良かったです。また、FTA カードを使用するなど、より簡便な方法を導入する試みをされているのがよく分かりました。
- ・全く知らない分野だった為、難しいと感じたが、遺伝的品質管理等を業務としている技術職員もいるという事を知る事が出来た。
- ・ラットは、種や系統による遺伝的要素の異なりを持っているため、制御を行っていないものを実験に用いた場合、実験結果や成果にバラツキが生じてしまうため遺伝的品質管理を行い、個体間のバラツキを小さくし、動物実験の制度と再現性を高めていることを知った。また、その形質を保持するための厳重な管理や、系統の維持および新たな系統の作出や、SSLP マーカーを用いた系統間多型の検出方法や、血液を使わず口腔スワブを用いたジェノタイピング法の改良を実践し確立されており発想と実行力に刺激を受けた。
- ・動物実験に必要な実験動物の管理はいかに大変かがよくわかる講義でした。また、自分の業務でも使う DNA の採取ツールの新しい情報も教えていただき有意義でした

ウイルス・再生医科学研究所 宮地 均 技術専門員

講義『遺伝子改変マウス作製について』(19 件の回答から抜粋)



- ・発表スライドに写真や動画が多くて実際の作業のイメージがしやすく、分かりやすかったです。顕微鏡下で受精卵に ES 細胞を挿入したり、受精卵を母体の子宮に戻したりする手技に技術の高さを感じました。
- ・遺伝子改変マウスを作製する方法で、ガラスピペットを用いて受精卵に直接 外来遺伝子を注入する所が印象的

だった。この方法によって得られる遺伝子改変マウスは確率的におよそ1%前後だったと記憶しているが、これはかなり沢山の回数をこなさないと目的のマウスが得られないことになる。講義ではこの作業は自身の研究室で行うよりも、こちらに業務委託する方が効率的ということだったが、もし、遺伝子改変したマウスを実験に用いたいという話が持ち上がったときには、こちらを先生に紹介しようと思った。ご紹介頂きまして、どうもありがとうございました。

- ・マウスとラットの違いを初めて知った。
- ・遺伝子改変マウスを効率よく作成する方法など実際に詳しく説明していただき理解できた。改変マウスの系統保存は遺伝子の数が有限であっても保管場所の問題・生物である以上交配していかなければ維持保存できないが、遺伝子異変がおこるなど制約があることが理解できた。また遺伝子改変マウスは遺伝子機能を解析するためにはならない手段で、病気の発症機構の理解や治療法の開発に重要と思うとともに、貴重な研究資源・知的所有権などもあると思うので、積極的に資金を投資したほうがいいのではないかと感じた。
- ・特定の遺伝子を導入した遺伝子を過剰に発現させたり、破壊したり、多種多様なマウスが存在することが分かった。また、研究目的に合ったマウスを作出していくため、マウスの遺伝子数に比例した数の遺伝子改変マウスが今後作出されるということ。それらのマウスを飼育保時していくにはスペースなどの物理的要因と世代交代を経る過程で遺伝子変異の発生などから、これらを回避するために受精卵の凍結保存で対応し、発表者の所属でも3万7千以上もの保存を行っていると聞き驚いた。我々の現在があるのは、実験動物の尊い犠牲とそれらに携わる技術者の創意工夫により支えられてきたことが僅かかもしれないが理解できた。

## 生命科学研究所 脳機能発達再生制御学 今吉 格 准教授

### 講義『遺伝子改変マウスを使用した神経幹細胞とニューロン新生の研究』(20件の回答から抜粋)



- ・神経幹細胞について全く知りませんでしたが、加齢による認知症などの改善に早く研究成果が出ることを強く期待しました。
- ・生命の複雑で精緻な仕組みの一端に触れることができました。内容もとても盛沢山で面白かったです。
- ・動物の後天性の性質にニューロン新生が深く関わっている可能性があるという研究結果は非常に興味深いものであった。また、動物の個性研究については定量化しにくい事象をデータ化する試みに面白みを感じた。
- ・専門的な話だったが、噛み砕いて話していただいたので、理解しやすかった。技術職員がしっかりマウスを管理しているからこそ、このような研究ができていのだなと改めて実感した。
- ・見たこともないものを怖いと感じる本能と遺伝子との関係について、大変興味深く、もう少しお話を伺いたい

と思いました。

- 成体の脳においても神経幹細胞が存在しており、ニューロン新生が起こっていることに驚きました。同系統で遺伝的にはほぼ同じマウスでも個性があるというお話や記憶学習における行動パターンの変化など非常に興味深いお話でした。
- 神経幹細胞は、発生期から成体に至るまで脳の中に存在し、脳の形成と可塑性の維持に必須の役割を担い、脳を構成する細胞（ニューロン、オリゴデンドロサイト、アストロサイトなど）の基で極めて厳密的なメカニズムによりコントロールされているが、それらのメカニズム解明のために先の発表であった遺伝子改変マウスと神経活動や遺伝子発現を光で操作するツールと組み合わせて利用されていることを知ることが出来た。動物の「個性」は、外界に対する独立性を保ちつつ連続的で一貫した自律性のあらわれで、時としてハズレ値でもあるという説明が分かり易く腑に落ちた。
- ニューロンや脳の研究において、遺伝子改変マウス技術の重要性を改めて実感した。かつては、ニューロンや脳細胞は、一度死ぬと再生しないとされてきたが、遺伝子改変マウスを使用した昨今の研究により、再生することが示されていた。また、今年度のノーベル医学・生理学賞を受賞した京都大学の本庶佑博士の免疫システムにブレーキを外す仕組みの研究では、遺伝子改変マウスを使用して、免疫細胞を制御するブレーキとして働くタンパク質の機能を阻害する抗体によりマウスの癌が消える重要な成果を得ている。このように、遺伝子改変マウスは、様々な研究で重要な役割を担っている。更に、近年の研究により、神経活動や遺伝子発現を光で操作するツールの開発も進んでおり、遺伝子改変マウスと組み合わせて、最先端の研究が行われている。将来、これら最新技術により、様々な研究成果を発見し、新薬開発や治療技術革新に繋がっていくだろう。それ故、遺伝子改変マウスを使用した研究の重要度も更に強まる事が揺るぎない事だと理解した。
- 最先端の神経細胞の研究を拝聴することができてとても有意義でした。生物に関わる講義が密度濃く行われ自身の業務と関わる部分も多くとてもよかったです。

## 複合原子力科学研究所 吉永 尚生 掛長

### 講義『複合原子力科学研究所における実験設備の維持管理』（17件の回答から抜粋）



- 重水漏洩について、場所の特定から防止の対策まで事細かくご説明頂き、非常にわかりやすかったです。一つ一つ問題を改善していくプロセスは今後の業務を進めていくうえで参考になった。また、施設管理という面でも参考になる部分が多かった。
- トラブル事例について順を追ってご説明下さり、わかりやすかったです。ご苦労された様子が伝わってきました

た。配管やダクト周りにおいて、人が入れない箇所があるとお話していましたが、そもそもの設計時にもっとメンテナンスしやすい設計にはできなかったのかなと疑問に思いました。

- ・核燃施設でトリチウムを含んだ水が漏洩していたのは初耳だったが、事象の発見から対応まで大変興味深く聴講できた。ここ複合原子力科学研究所ではさすが核燃施設らしく研究炉部など複数の専門チームから構成され、これらが協力しあって漏水問題などに取り組んでいた。トリチウム拡散防止の目張り、ヘリウムリークセンサーを用いた漏洩箇所の特定、漏洩箇所の補修・修繕、そして再発防止対策。狭い場所で作業を行う時の写真など現場の様子も示され、もし放射性物質が漏えいした場合はこんな感じになるのだろうとイメージ出来、大変参考になった。
- ・放射線や放射性物質を扱っているために、かなり物質の漏洩や設備の維持管理に厳格に対応されていることが分かりました。Raspberry Piを使用した調査ロボットを自作するなど、業務の工夫の幅広さと迅速さが素晴らしいと思いました。
- ・トリチウムを含む重水漏れに限らずの業務上遭遇しうる不測の事態にどう対応するか、できるのかについてクライシスマネジメントを意識し準備しておくことの大切さについて改めて考えさせられる講義となった。我々の職場の施設においても設計の際にメンテナンスを考慮した構造になっていない事は多々ある。また有事の際に、個人や所属部に限られたメンバーで対処せず異なった専門の職員の英知を合わせることで、トラブルへの対応や情報を必然と共有できることになるので、技術職員の横の繋がりというものを自分の職場でもより一層意識しなければと考えさせられた。
- ・トラブルがあった際に妥協することなく原因を追及されている様子がよく伝わり、技術職員がいてはじめて原子炉というコントロールがシビアな施設を管理できていると感じました。

## 株式会社インソース 野寄晃弘氏

### 講義『ハラスメント防止について』について(18件の回答から抜粋)



- ・今までハラスメントについて詳しく知る機会がなかったのでよい経験になった。ハラスメントの基準は主観性と客観性をもとに決定されるが、やはり曖昧な部分も多いので、被害者と加害者、第3者それぞれの立場で気をつけていかなければならないと感じた。
- ・改めて勉強になりました。ただし、今回のように高い意識を持っている参加者だけでなく、全職員に定期的に研修をするのが良いと感じました。
- ・パワハラはその行為の被害者だけに限らず、その行為を見聞きしている周りの人も不快に思えばパワハラとな

るということを知りました。今回のご講演を聴いて、自分が加害者にならないのは勿論ですが、周りにもハラスメントの兆候がないか気を配らないといけないと思いました。

- ・ハラスメントといえば意図的に行われるものだと思っていたが、無意識に行われるハラスメントもあるのだなと意外に思った。例えば、机の上に家族の写真を飾っている場合、家族がいない人にとっては不快に思うことがあり、これがハラスメントになるのだという。他にも善意の言葉が相手を不快にさせ、ハラスメントになることもあるらしく、だんだんハラスメントの範囲が広がってきたなど勉強になった。
- ・今まで漠然とこういう事がパワハラ、セクハラなどと判断しながら、ニュース等を見ていたが、今回ワーク部分で考える時間がある事で、より自分の中に落とし込められたように感じている。今後、自分の言動が、ハラスメントだと感じられないように気を付けたい。
- ・組織の構成員が共通の認識を持ち業務を遂行したらきっと上手く事が運ぶことが多いだろうが、実際はなかなか難しい。同じ場で話し合ったにも関わらず個々の認識に齟齬があることが多々あり、気を揉むことも間々ある。そういった認識の齟齬が積み重なり相互関係に支障をきたしてしまうことが、職場におけるハラスメントの原因の一つだと認識している。認識を共有する事は元より、それが出来ずに外れた行動をとってしまいがちな者に対して、然るべき立場の者が然るべき時に諭し諫め、その周囲にいる者へも理解を促すことがその解決に繋がると思う。鉄は熱いうちに打てというが時期を逸すると困難になる。今回の研修では立場が上の者から下の者へというケースでの説明が主だったが、下の者から上の者へ、同じ立場のもの同士でもある。接遇やマナーが相互で徹底されていないと、ハラスメントに繋がる現場を経験しているのでその点も大事であろう。講義でもあった様に、外部の人間などに相談にのってもらい一人で悩まない、可能な限りストレスと距離をとる、第三者機関への上申・相談、記録をつけるなど、身を守るための術も常日頃から意識し備えることも大事であると思った。

## 防災研究所 技術室 米田 格 技術職員

### 講義『マイコンボードを使った計測システム』について(17件の回答から抜粋)



- ・IoTの話とはおもいませんでした。最近研究でよく利用されている Raspberry Pi と Arduino を使用した報告で楽しく拝聴させていただきました。
- ・電源や、通信手段の確保が難しい場所でスムーズに働くシステムを確立するのは、とても大変そうと感じました。一つずつ課題を解決する過程をととても分かりやすく示していただけ良かったです。
- ・試行錯誤しながら問題解決していく過程は見習うべきものがあると感じた。マイコン自体の内容やそれに対する

る質問なども非常に勉強になった。

- 風向の計測システムを自作するというお話しでしたが、私はプログラムやシステムの構成といった知識がないので、どのくらい大変なのかが分からないのですが、とにかくご苦労された様子は伝わってきました。私は業務で精密機器の維持管理もしておりますが、何かトラブルが起きた際には、まずは自分で原因を探してみますが、結局は対処しきれずメーカーの方に来てもらうことが多いです。何かから何までご自分で対処されていて感心しきりでした。また、技術職員の業務が幅広いというのは認識しておりましたが、このような業務もあるのだなと改めて思いました。
- 電子回路を自分で組み立てて、海外から日本に向けて測定データを送信させる。とても難しい作業で、コンピューターの知識に疎い自分にとってはとても無理な作業だと思った。今回は通信エラーでうまくいかなかったが、講義の後の質疑応答の時間で詳しい人が助言されていたので、うまくいくといいなと思った。また、助言できる人がいるというのが、さすが京大技術職員と思った。
- マイコンボードを使用しての風向風速計測という事で、ロガー作成時の失敗と改善、そして現地での様子が良く分かった。これまでも考えていたが、自分でも何か計測器を作成してみようかと思った。
- ラズベリーパイなどの汎用マイコンボードは以前から興味があり、実際にどのような使用のされ方がされているか理解できた。海外からのデータ送信現地のスタッフにも操作できる簡易性などシステムを構築していくときにいろいろ制約があるのだと思った。このような案件で重要なのはスケジュール管理とできるだけ考えられるトラブルを事前に想定しておくことだと思うが、予算・人員ともに不足している状況ではその都度問題をブラッシュアップして行くしか無いのかもしれない。
- 依頼に対する取り組みや問題への対策方法の検討など、業務を遂行する上で必要なことが詰まっていたように思う。一つ一つ原因を突き止め、解決していくのは、労力と時間のかかる作業だということを改めて感じた。
- トライアンドエラーを繰り返して研究に耐えうる精度を製作される様子を非常に興味深く拝聴しました。

### 理学研究科附属天文台台長 柴田一成教授

#### 講義『太陽の脅威とスーパーフレア』について(19件の回答から抜粋)



- 様々なフィルタを使って撮影した太陽の映像が大変興味深かった。フレアについて、あまり認識がなかったが、思ったよりも怖いものであることが分かった。これから研究が進んで、宇宙天気予報が実現するとよいなと感じた。
- 喜多郎さんの音楽とコラボレーションされた映像は綺麗で、とても迫力がありました。フレアやプロミネンス

といった活動は写真でしか見たことがなかったので、ダイナミックな動きを見ることができ貴重な体験をさせていただきました。今後、太陽にもスーパーフレアが起これるというお話は正直怖いと思いました。

- 動画がとても良かった。核融合反応で太陽から地球に放射線が降り注いでいるというイメージが今までつかめず、太陽から放射線が本当に出ているのか 半信半疑だったが、今回の動画でそれがかめた。また、スーパーフレアによって人工衛星から撮った太陽の映像が一時的に乱れる場面があったが、これは太陽から放出された大量の放射線によってカメラが被曝し映像が乱れるからだという。この説明を聞いてすごいなあと大変興味深く思えた。
- スーパーフレアの発生メカニズムと起こる周期があるのを知りました。現代 IT に対しては脅威しかないと思った。
- 「稀にしか起こらないような現象は、サンプル数を増やせばよいのではないか」というアイデアは、なるほど、と思わせられました。また、学部生を動員して人海戦術的に研究を進められたことは、私も研究で泥臭い作業を何年も続けた経験から、共感するところがありました。
- 柴田台長とはこれまでもお話しする機会があり、花山天文台での研究の事も簡単には聞いていた。講義を聞くのは初めてで楽しみにしていた。写真と映像が多く、とても楽しく興味深い講義だった。また、岡山の 3.8m 望遠鏡が完成し運用を開始したという事で、いつかは 3.8m 望遠鏡を見に行きたいと思った。
- フレアの脅威を今まであまり知らず意識していなかったが、X10 クラスのものも年に一度は起きていること、航空機の乗務員もフレアによる放射線被曝による搭乗制限があるということも驚きだった。それよりも、花山天文台が存続の危機に瀕しているとの事実も衝撃的だった。また、恐竜絶滅の原因として超巨大フレアの可能性や、太陽フレア 100 倍のスーパーフレアは 1000 年に一度発生しており、人類の祖先は少なくとも 20 回はそれを経験し種を繋いだことや、太陽は誕生して 46 億年経っており若くなく少しずつ膨張し続けており、5 億年後には海水が蒸発してしまうので、それまでに人類は地球を脱出しなければならないという事実も驚きとともに新しい知見となった。
- 先生のお話がとても面白く飽きることなく最後まで聞くことができました。太陽の活動があれだけ鮮明な画像で見るのは初めてで良い経験になりました。

### 見学『理学研究科附属花山天文台』について(18 件の回答から抜粋)

- 天気が悪かったため、本館の望遠鏡ではドームが開いている様子が見えなかったが、別館ではその時の太陽の様子を望遠鏡で観察できた。日々スケッチして得たデータを蓄積していくことは非常に忍耐がいる研究だと感じたが同時に必要性も感じた。どの場所の望遠鏡も仕様を満たすために鏡を用いて距離を稼ぐなどの仕掛けが見られ、当時の技術者の創意工夫の様子が伝わってきた。
- 古い機械が現役で使用されていることに感激した。また様々な望遠鏡を使った太陽、惑星の観測方法など大変興味深く見学できた。
- 飛驒に天文台があるというのは存じ上げておりましたが、恥ずかしながら花山に(こんなに近くに)天文台があるというのは存じ上げませんでした。京大の吉田キャンパスからも近い距離にあり、利便性が高い施設であると思いました。今回、見学させていただいて大変歴史のある貴重な施設であると実感いたしました。



- ・分光器や望遠鏡を実際に見られて、とても興奮しました。また、黒点のスケッチをガリレオの時代から今日でも続けていることを知って、天文学者の永い営みに触れたように思いました。
- ・個人的に一番関心を持ったのは18cm屈折望遠鏡が現役で日本最古の望遠鏡でありながら改良をしながら使用することにより、現在でも科学研究に用いられていることだ。以前依頼を受けたフィルターなども取り付けられているようだったので、自分の制作した物がどのように使用されているかも見られて大変勉強になった。



- ・今まで本でしか見たことがなかったような観測の現場を見学できて非常に嬉しかった。また、観測所の維持の大変さを理解した。歴史のある貴重な場所だと思うので、残ってほしいと感じた。
- ・花山天文台にははじめてお邪魔させていただきました。時間という概念がとても大切で今でこそ簡単に正確な時間を知ることができますが、以前は様々な工夫をして時間を知っていたというのが印象的でした。生憎天候が安定せず太陽望遠鏡での観察はできませんでしたが、歴史ある望遠鏡が未だ現役で活躍していることなど興味深く拝見できました。



### 今後取り上げてほしいテーマ、見学先などありましたらご記入ください(12件の回答から抜粋)

- ・岡山、飛騨の天文台や複合原子力科学研究所、白浜水族館など
- ・大学の古い施設を見学したい。
- ・共通的なヒューマンスキルのアップができるような研修に時間をもっと割いてもよいのではと思います。
- ・iPS細胞、癌治療最前線、植物の育種、薬用植物園、白浜水族館
- ・技術職員の技術継承について（人の入れ替わり）
- ・京都大学野生動物研究センター幸島観察所を見学したいです。
- ・施設維持の為に防災上優れた 建築・土木、基礎工事の実習（耐震性に優れた鉄筋コンクリート基礎やコンクリート壁のクラック補修の施工等）。
- ・化学系や建築系、情報系などの多種多様な専門分野の発表があげられる。また、VRを用いた研修を希望する。更に、技術職員の共通する内容として、技術系文章の書き方講義も有意義だと思う。今後、学内学外を問わず、様々な分野の講義や見学、実習研修の開催を期待している。今後取り上げて欲しい見学先として、京都大学生態学研究センターや流域圏総合環境質研究センター、信楽MU観測所、京都工芸繊維大学の松ヶ崎キャンパスなど、他大学や京都高等技術研究所（ASTEM）、京都市産業技術研究所などの研究機関の実習を含めた見学をしたい。また、見学したい企業として、島津製作所や堀部製作所、村田製作所、ムラテック村田機械、ライトタッチテクノロジー、日本電産、三菱電機、京セラ、ロームなどの見学を希望する。
- ・水生生物に関する研究の見学をしてみたい。
- ・農場の技術職員の発表なども聞いてみたいと思いました。京大附属農場を見学してみたいです。
- ・自然科学系の講義

### 今回の研修でお気づきのことありましたらご記入ください(12件の回答から抜粋)

- ・今回、生化学系の講義が連続してありましたが、まとめて聞くことでより深く理解できた気がします。
- ・ハラスメント講習は、全構成員に定期的に受けさせるべきだと思います。
- ・研修の募集期間が1週間と短い。多忙な部局長から受講の許可を取るのが時間的に厳しいと思う時がある。先生は学会や海外出張で大学にいない時も多く、連絡が取りにくいことから募集期間が短いと焦ります。
- ・ラット・マウス関連の講義が続いたが個人的にはもう少し別のテーマを入れてもよかったのではないかと思います。
- ・今後も業務の調整をして、出来るだけ研修に参加したいと考えている。

- ・今回の技術職員研修は遺伝的品質管理、マウスの作成、マウスを使用した実験など、一つの流れがある講義で面白かった。今後の技術職員研修ではテーマを決めて研修していくのも面白いのではないかと思う。
- ・会場もゆとりがあり、世話役の方の運営もスムーズで落ち着いて受講することができました。ありがとうございました。



以上